

●京都府交響プロジェクト交付金の交付決定

7月の初旬が申請締め切り日で、駆け込み申請を行いました。従来の申請項目に加えて子育て部門が新設されていました。里山の会は従来部門での準備で書類の作成をすすめました。多数の申請が予想されるので、申請部門を比較的少数と考えられる新設部門に変更しました。その後幾度かの変遷を経て落ち着き、最終段階で新設の福祉部門への申請となりました。事業予算は300万円規模で、交付決定されたとの連絡が届きました。主な事業6項目のうち4項目（11月7日）がすでに実施済みとなっており、事業報告書のとりまとめになっています。残るところは中聖牛の設置事業と地域説明会の二つの事業となっているので、交付決定が認められないと相当な赤字覚悟でのイベントになってしまうのではないかとやきもきものでした。それが10月30日に交付決定が届き気分的に大きな心配が拭い去ることになって、ほっとしたところです。残すところの里山農園の生き物調査のまとめ作業を行いながら。中聖牛の設置に全力を傾注することになります。年が改まると地域説明会の実施となります。その折には皆様こぞって参観にお越しください。今は会場確保に集中しております。

●トヨタ環境活動助成プログラムのうち国内小規模プロジェクトの6件の一つに採択される(事業名:「木津川におけるイタセンパラの復活を目指す」)

事業期間は、2020年1月1日～2020年12月31日の1年間となっております。具体的な申請内容は796号10月24日で説明しております。実施計画のスケジュールは1月:スタッフミーティング 2月:先進地見学 4月:生息池周囲と進入路の整備 6月:生き物調査 9月:竹蛇籠の製作 11月:中聖牛の設置 12月:まとめの編集の予定をしております。この交付決定に次の二つの条件が選考委員会から付帯されています。一つは、イタセンパラがどうなったら復活したといえるのか、復活の目安を定量化すべき。二つは、安定的に生息させるにはどの様にすればよいのか、意識をもって活動にとり組んでいただきたい。ということです。

とりあえず着手前の現状を徹底的に撮影を行っておくことであると考えております。11月9日に予定する中聖牛設置のためにドローン撮影を予定している京都大学防災研究所に依頼することからと思っています。引き続きスタッフのミーティングのための人集めであり、基本的な知恵袋となる人をどのように集まってもらうことに全力を注いでおります。我こそはと名乗っていただけるとありがたいものです。

●京田辺市民文化祭 380人の来訪者にパンフレット配布

展示物関係では金田さん太田さんによるヤマトサンショイウオ(カスミサンショウウオ)の説明ポスターとビデオによる生息池付近の動物の出現の様子が大人気でした。また伊藤さん他による木津川の植物写真も迫力ある解説が好評を得ました。そして、二日間にわたって太田さんや大釜さんなどの説明が丁寧で、わかりやすいものだと感謝されました。なかには木津川はこんなに豊かな自然を持っている川だとは知らなかった。再認識したという方がかなりおられたということでした。展示内容に色々工夫され親切な解説が大きな成果を生み出ることが出来た。模擬店では、当初予定していなかった柿の販売は、初日の午前中にすべて完売するということになりました。今年は里山農園での人手不足と気候の変動で、販売する予定の野菜の生育が芳しくなく、唯一柿の販売のみとなってしまいました。模擬店には農産物といった野菜系統や、生り物系統の販売店がなく熱気が見られず寂しいもので、まさに低調でした。全体を通して来場者がまばらで、賑やかさが見られず元気が消失した静かな催しでした。

それでも里山の会として用意した案内パンフ 380 枚を配布できたことは画期的なもので、かなり正確な実績を残せたのではないかと思います。振り返りの事務局会議では、効率という点から見ると 非効率であったこと、成果物や販売物品がなく農産物販売が実行できなかったことが心残りでした。次回来年度からは模擬店の出展は再考すべき時に差し掛かっているのではないかと。そういった声が上がっています。

●草内倉庫の枯れ木 乾燥しやすくするために積み替える 里山農園の枯れ木が草内倉庫前に運び込まれたのは 2 年前で、巨大な寸切りが 60 本以上放置されてきた。これ以上長く放置しておくわけにはいかないと 9 月に入って竹蛇籠製作時期に合わせて斧で割り出し初め、9 月末には全部割り終えることが出来た。次にはその割り木の処分です。焼却処分しか他に方法が考えつかずにおりました。数日来の雨天で水分をかなり含んでいるので、まず乾燥させることだとして青代さんと深田さんにお世話になって、井桁に積み替えて風通しを良くしていただきました。ここ数日の秋日和ですっかり乾ききるのではないかと思います。出来るだけ早い段階に焼却処分で片づけたいと思っています。

●中聖牛の組立について 丸太の納入は 20 日ごろに 玉石入れは 15 日ごろの予定です。今年で 4 回目となる竹蛇籠の製作では、相当熟練者が誕生しました。それで中聖牛の木材の組立についてぜひとも技術を習得したいと考えています。それで組立リハーサルの実施を計画しました。 16 日(土)13 時～15 時の 2 時間 玉水橋広場(竹蛇籠製作広場)

23 日(初日)の第 1 号は原小組さんに見本の組立を見学させてもらい学習して、午後からの第 2 号は里山の会と参加者が力を合わせて組立ててみようと思います。もちろん原小組さんは監督者として見守っていただき、随所でご助言をいただきたいと思います。昨年には有田さんに一部始終のメモ書きをいただき手順書をまとめてもらいました。

手順書に従って試行を行ってみたいと思います。(11 月 16 日 13 時より 15 時まで)

24 日(二日目)前日に本番行っているのです、それを活かして参加者で組み立てます。午前中に玉石を込めて完成させます・13 時から蛇籠シンポジウムを京都府山城勤労者福祉会館で開催します。15 時には原小組さんが静岡に帰られるので集合写真を撮影し、お見送りします。その後竹門先生や角先生のご講演をいただいで質疑応答の後 閉会挨拶とします。

●里山農園の猪対策 防護柵の設置 11 月 5 日里山農園の作業予定日で、太田、大釜、大村、森島、吉川、深田、播川、金田、寺村、有田さんの 10 人が集合いただきました。夏原グラントの助成金申請で猪防護柵の補強を行うための草刈り作業を行うための準備をと位置付けていました。もちろん台風 21 号による洞穴探検ルート of 安全策とする倒木の伐採除去も予定していました。約 2 時間の作業時間でしたが、猪の防護柵の設置の畑側の草刈りはかなり出来ましたが、柵の外側の草刈りまでは手が及びませんでした。洞穴ルートの倒木伐採は太田さんのご奮闘で目立ったところは伐採切断できました。猪の侵入防護柵の設置のためには柵の外側の除草が決め手になりますので、現在の柵の位置変えを行って除去作業を行いやすく平地の確保が必要とのことから、猪防護柵を内側に引き戻すことも対策として考えることになりました。